
FATE短編集

K&N

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

FATE短編集

【Nコード】

N1432Y

【作者名】

K&N

【あらすじ】

これには作者が書いてみたいと思いつつも文才の無さゆえにあきらめたfateの短編を載せていきたいと思つています。設定が気に入ったのでしたら自由に使つていただいて構いません。

狂王様の聖杯戦争

暖かく太陽が町を照らし、人々はそれぞれ自分のいるべき場所で活気を見せていた。

そんないつも通りのここ冬木市の日常は今日は少し違うようだった。

それは堂々と道を闊歩する雪のような美少女とその彼女に付き添う白い髪的美青年のせいでもあるだろう。

彼らが道を歩くたびにモーゼのごとく道が開けていく。

彼らの風貌からすれば兄との散歩にはしゃぐ妹とそれを温かく見守る兄に見えることだろう。だが、

「バーサーカー、今ので殺ったの何人目？」

「今のところ、魔術教会のスパイと使い魔をあわせて20ということころだ」

「バーサーカーって本当に凄いな」

「当たり前だ。ほかの誰でもないイリヤのサーヴァントなのだから」

話していることは些か以上に物騒であったが。

彼らはこの冬木市で行われる聖杯戦争に参加する魔術師の主従。

それも1000年近い歴史を持つアインツベルン家の魔術師だ。

もっとも今となつては1000年近い歴史を持つて？いた”家だが。

「ほんとに多すぎるよね？私たちはついこの前に？災害 で滅んでしまったアインツベルンの生き残りっただけなのにね。」

「ククツ、まつたくだな。たまたま？偶然 に起こってしまった？災害 で？運悪く 滅んだ家の生き残り

のような特別興味を引くようなものではないものを血眼で探す必要はないな」

「フフツ、本当にね……バーサーカー」

『フフフ、アハハハハハハ』

いつもと同じようで違う日常それは原因不明の心臓発作で亡くなった人が薄暗い路地裏で骸をさらしていたことなのかもしれない。

「そろそろ始めよつかバーサーカー。私たちの聖杯戦争を」

彼らはアインツベルンが用意した魔術師主従にして、アインツベルンを滅ぼし魔術の世界に混乱をもたらした最悪の主従

マスター・イリヤスフィールとそのサーヴァント・バーサーカー生前呼ばれた名は 狂王ライ

「了解だ。マスター。始めようじゃないか、私たちの戦争を！私たちの願いの成就のために」

運命の劇場は開場した。後は各々全力で競うしかない 運命の夜で 運

狂王様の設定

クラス バーサーカー

マスター イリヤスフィール・フォン・アインツベルン

真名 ライ・ラ・ブリタニア

属性 秩序・善

現界可能なクラス

セイバー ライダー バーサーカー

パラメータ

筋力A 耐久C+ 俊敏B+ 魔力A++ 運C 宝具EX

スキル

狂化：C+

理性と言語能力を奪うがサーヴァントのスペック値を0.5〜1上げる。

耐魔力：B

魔術発動における詠唱が三節以下のものを無効化する。

大魔術、儀礼呪法をもってしても、傷つけるのは難しい。

心眼（真）：B

修行、鍛錬によって培った洞察力。

窮地において、その場で残された活路を導き出す戦闘倫理。

騎乗：B

幻想種以外の動物を乗りこなすことができる。

戦闘続行：A

瀕死の傷でも戦闘を可能とし、決定的な致命傷を受けない限り生き延びる。

カリスマ：B

軍団を指揮する天性の才能。

Bランクでは、一国の王にしては十分な才能。

魅了：E

魔性の男。老若男女構わずにひきつけてしまうほどの美形。

魔術的な要素は欠片もないがカリスマと相まって人がほとんど引き寄せられる人間ホイホイ。

スキル？

フラグー級建築士：A

友情、恋愛、死亡、苦勞のフラグが異様に立ちやすい。

比率は2：1；3；4彼が生前カエサルに侵略されたり、それを退けたと思えば民に見限られたりしたのもこれのせい。

恋愛の比率が低いのは大変でそれどころではなかったから。

宝具

オートクレール《高く清らかなる剣》：C+

美しい銀の西洋剣。その名にあるように淀んだものを清める能力がある。

これは魔力や血流に淀みがあれば清めることができる医者泣かせな宝具である。

だが生前彼の度重なる激戦の未折れ最早剣として使われることはない。

アルカディア《絶対不侵の理想の防壁》：A+

精神系の魔術を完全に防ぎ、ランクA未満の物理的な衝撃を遮断する心の生み出す蒼き障壁。

狂化による理性の消失や言語能力の低下も抑えることができる。

これを使うにはある程度集中しておかねばならず、集中が切れれば恩恵がすべて消えてしまう。

真名開放を行った場合因果ですら遮断する障壁を張ることができる。また障壁を指向性のエネルギーに変えることもでき、その威力はサーヴァント相手にも十分有効。

だがこれには多量の集中力が必要で使い所の見定めが必要。

使用者の認識できる範囲外から、攻撃の気配もなく奇襲してくるようなサーヴァント相手には効果を発揮できない。

グロウヴィル《勇者の望みし勝利の剣》：A++

身の丈を優に超える漆黒の大剣。真名開放で魔力を赤黒い光に変換して放つ。

その威力はかの星の聖剣にも劣らない。最強級の剣。

所持するだけで筋力、俊敏のパラメータを1ランク高めることができる。

グロウヴィル《絶対勝利の勇者の聖剣》：EX

身の丈を優に超える漆黒の大剣が自らにかけられる制約文を唱えることで聖剣としての真の力を開放した姿。

自分の目、腕、足などの体の部位や視覚、聴覚、嗅覚などの感覚、そして人間が生きる上で必要な機能などを生贄に捧げることで回避防御不可能の一撃必殺の滅光を放つまさしく最終兵器。

狙われて生き残るためにはその威力を遥かに上回る力で相殺するし

がなく、生き残ることは実質不可能。

所有するだけで全てのパラメーターを1ランク高めることができる

補正後のスペック

グロウヴィル A++ & 狂化時

筋力 A++ 耐久 B 俊敏 A+ 魔力 A+++ 運 C+

グロウヴィル EX & 狂化時

筋力 A++ 耐久 A 俊敏 A+ 魔力 EX 運 B+

概要

ヨーロッパの小国の王だった彼は周りを強大な列強の国々に囲まれながらも内政にいそしみ民にも人気の高い名君の模範のような人物だった。

しかしあるとき、平和な彼の国にいきなりローマより宣戦布告が下された。

ガイウス・ユリウス・カエサルの率いる精強なローマ軍の前に小国でしかない彼の国は抵抗むなくその力に呑まれ国土のほぼすべてを支配下に置かれてしまった。

だが彼は目の前に迫ったその滅びの運命を良しとしなかった。

彼は民を愛していた。その愛する民を好き勝手に蹂躪された怒りは生半可なものではなかったのだ。

彼は怒りのままに叫んだ。

「あの者たちを討打できる力がほしい！私に捧げられるものがあるならば全てを捧げてみせよう。だから悪魔でも死神でもいい私に力を！！」

するとどこからともなく声が響きわたった

「よかるう。貴様の魂を対価に力をやるう。前金だ、貴様の影はもらうていくぞ。」

と、そして彼の影が消え、影の代わりに身の丈ほどの漆黒の大剣が

置かれていたのだ。

大剣を手にした彼は一人でローマ軍に挑んだ。敵うわけがないそう誰もが思っていた。亡国の王の最後の足掻きだと。

だがそれは違った。彼が手にしている大剣をふるうたびに数百の兵の命が消えるのだ。

ローマ軍の将兵は動揺し混乱した。

その中で誰かが気付いた。あの王には影がない。奴は悪魔に魂を売ったのだと。

動揺した兵をまとめきれなくなったカエサルは仕方なく軍を引くこととなった。

彼の国は確かに救われた。しかしこの戦いで出た被害は大きく国としてなりゆかなくなるほどのものだったのだ。

つまり周りの国や蛮族に侵略され続けるしかなかったのだ。

彼は努力した。少しでも愛する国民の笑顔が戻るようにと一人で戦い続けた。

数えきれえないほどの国の侵攻を押し返し蛮族の侵入を防いでも彼の心が休まる時はなかった。

そんな時にとある噂が流れた。選定の剣を抜いた者が現れイングランドの王になったという噂が。

度重なる侵攻で疲れ切っていた彼の国の民は、王になるべくして王になったアーサーの元へ去って行ってしまった。

彼の元に残ったものは荒れ果てた彼の国だったものと常に思い続けてきた民たちの実質的な裏切りに対しての憤怒だった。

彼は民を思うが故に攻めはしなかった。だがその行き場のない怒りは彼を狂わせてしまうことになった。

彼は周囲の国に何の前触れもなく攻め入った。ただ手にした大剣を

振り回し破壊の限りを尽くした。

そして彼の国に攻め入った国のほとんどが壊滅的な打撃を受けその民たちはアーサー王の元へと集まった。

彼一人の手によっていくつかの国が彼の手に落ちたことから民衆から彼は“狂王”と恐れられることになる。

そこまで恐れられた彼をアーサー王も放っておけなくなり自ら円卓の騎士を引き連れ討伐へ向かった。

彼はアーサー王を待っていたかのように彼の国の跡地に現れアーサー王と円卓の騎士たちに襲いかかった。

彼とアーサー王達は三日三晩戦い続け四日目の朝日が出た瞬間にアーサー王の手によって決着がついた。

虫の息となった彼はアーサー王に自らの民のことを頼み、奪われたはずの影に吞まれて消えていった。

アーサー王はその後彼が滅ぼした土地を支配下に置きブリテンの基礎を作り出すのだった。

捏造史実

本来ブリタニアはカエサルの侵攻によって滅んでいたが、力を手に入れたライによって占領は免れた。

しかし、国土は荒れ果て多くの国が乱立することになった。

その中で後に騎士王と呼ばれることになる英雄アーサー王がイングランドで誕生する。

彼に光を見出したイギリスの民たちは次々にアーサー王の元に集っていった。

結果的にそのことが周りの国の国力を削りライに付け入る隙を与えたことになる。

国力の衰えた国を狙いライは狂ったかのように国を滅ぼした。

最終的にはイングランドとライの一騎打ちのようになっていた。

つまりライを討ったアーサー王は特に苦も無く今のイギリスのほぼ

全土を手に入れることになったのだ。

元戦いの神様の設定

CLASS アヴェンジャー

真名 クレイトス

筋力A+ 耐久B(A) 俊敏C-(B) 魔力B+ 幸運E-
宝具EX

SKILL

神性A(E-)

オリュンポスの最高神ゼウスと人間の子であり、戦神アレスを殺し神に成り上がった戦いの神。
しかし、彼は神を憎悪し反逆を起こしたので神性が最低にまで下がっている。

心眼(真)A

数えきれないほどの戦いによって築き上げた洞察力。
窮地において自身の状況と敵の能力を冷静に把握し、その場で残された活路を導き出す“戦闘論理”。
その場で転
逆転の可能性がゼロではないなら、その作戦を実行に移せるチャン
スを手繰り寄せられる。

生存本能EX

不死身に近く 頭が潰されても餓死するまで一週間は生き延び、頭
部だけでも栄養分の枯渇まで数時間は生き続け生命力を持つ。

サーヴァントと化した事により魔力供給さえ有れば焼かれたりしな
い限り不死身と言って良い。

ルーンA

北欧の魔術刻印・ルーンの所持。ただし魔術を使うために所持しているのではなく自分への戒めの印として刻まれている。

神殺しEX

ゼウス、ポセイドン、ハデスなど数多の神を殺してきた証。神性を持つサーヴァントには絶対的な力を得る。

神々の試練EX

生前神々の試練で、または神々自身の手で4度死亡し、そのたびに冥府より這い上がってきたことより4つの魂の貯蔵がある。

魂の貯蔵だけなので十二の試練のように攻撃の無力化および再生能力はない。オーバーキルは無効される（複数回は殺されない）。

宝具

ゴッドオブウオー(A)

ブレイズオブエグザエル(Blades of Exile)、ハデスの鉤爪(Claws of Hades)、ネメアの力エラスト(Nemean Cestus)、ネメシスの鞭(Nemesis Whip)これらのAランク相当の宝具を一つ選択して使用する。どれか一つを使用している間はほかの宝具は使えない。

上の武器はそれぞれ鎖付きの双剣、魂を抜き取る鉤爪、大地をも揺るがすガントレット、雷を放ち続ける双剣。オリュンポス神の遺産。

ヘルメスブーツ(B)

オリュンポスの神々の伝令ヘルメスの履くブーツだが彼はクレイトスによって殺されブーツは彼に奪われた。

所有者の俊敏を一ランク上げる能力がある。

アポロの弓矢（C）

強力な炎を纏う矢を打ち出すアポロの弓

金羊の毛皮（A）

魔術や矢を弾き返すことのできる常時発動型の宝具で見た目は右肩に装備されている金の肩当。所有者の耐久を一ランク上げる。耐魔力のないクレイトスにはなくてはならない防具。

オリュンポスの剣（EX）

この宝具以外の全ての宝具を封印して使用可能になる宝具。クレイトスとゼウスの神としての力が込められた剣。クレイトスはこの剣を使いゼウスを殺し、世界を滅亡させた。

概要

スパルタ軍最強の戦士として戦いに明け暮れていたクレイトスはある日

バーバリアン族の王に殺されかける。

敗北を前に、戦神アレスに魂を捧げ、勝利を得るもののその代償はとてつもなく大きかった。

戦神アレスは、瀕死のクレイトスを助ける代わりに、彼から一切の人間らしい感情を

消し去り、真の最強戦士にするべく、唯一の拠り所である妻と最愛の娘カリオペを

殺す策略を仕掛けたのだった。

罠に落ち、自らの手により最愛の家族を失ったクレイトス。

家族が燃える神殿の煙はクレイトスの身体へ宿り、彼の肌を亡霊の

ごとく白く染めた。

その姿を人はこう呼んだ。

「スパルタの亡霊」と。

怒りに震えるクレイトスは、幾多の苦難を乗り越え、遂に戦神アレスの息の根を止め

自らが戦いの神「God of War」となる。

しかし、許されざる過ちを犯した彼の苦悩は、片時も頭から離れることはなかった。

その開放を求め、神々への救いを求めるも、ことごとく裏切られる。

遂には、実の父であるゼウスに陥れられたクレイトスは固く心に誓った。

「復讐こそ全て……」

ゼウスへの復讐を果たすために、運命の三女神をも殺し

人間も神も、また、かつて神々と争い敗北したタイタン族をも運命から解放したクレイトス。

そのタイタン族を現代に呼び戻し、クレイトスはオリュンポスの神々との最終決戦へと向った。

長く苦渋にまみれた戦いの末にゼウスを打倒したクレイトスは自刃し孤独の道のその先にある母と弟の眠る墓にその身を沈めた。

その場所は彼がスパルタの亡霊となり長い長い戦いに身を投じた場所だった。

彼は絶望が始まった場所で奇しくも苦悩から解放された真に安らかな眠りにつくことができたのだ。

その後クレイトスは世界に英霊として迎えられ、荒れ果てていた世界が人間の生き残りによって建て直され、そして再び破壊されるも発展していく人間の歴史を英霊の座で傍観してきたが、ある日願いを何でも叶えるという聖杯とその聖杯を巡って争う英雄同士の戦争のことを知る。彼はその聖杯で妻と子の復活を願い自分がその戦争に呼ばれる日を虎視眈々と待ち続けている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1432y/>

FATE短編集

2011年11月2日02時04分発行